



田植え順調に始まる

5月14日(日)より、町内の田植えが始まり、昨年より1日遅い作業開始となりました。

白倉和英さん(鶴城)の「きらら397」ほ場では、家族や親戚の皆さんで苗運びを行いながら、田植機2台を使い、手際よくスムーズに移植作業を行っていました。白倉さんは、「苗も平年並みなものが出来ており、作業も順調に進んでいる。」と話していました。

くみあいたより

JAなんぽろ



JA なんぽろホームページアドレス <http://www.ja-nanporo.or.jp>



南 幌 町 農 業 協 同 組 合



小学5年生学習田活動開始

JAなんぼろでは、本年も南幌小学校5年生（52名）対象の1年間にわたる田植えや稲刈り体験を行う、学習田活動を開始しました。

5月23日（火）には、田植えに先立ち、南幌小学校で田植えの事前学習として、空知農業改良普及センター空知南西部支所の山越氏を講師に招き授業が行われました。授業では、初めに、当JAの平井職員（営農部農業振興課）より南幌町の農業について説明が行われた後、普及センターの山越氏より、お米の歴史、田植え時の注意点が説明されました。また、当日植える苗や収穫時の稲を触ってどのような物か確認していました。児童たちは、真剣に話を聞きながら随時メモを取り、最後には質問をするなど、田植え学習に向け勉強を行いました。

5月30日（火）、田植え学習当日は、織田理事宅（鶴城）の水稻ほ場10aをお借りし、「ななつぼし」の苗を植えました。

最初に、山越氏より田植えの実演が行われた後、児童たちは水稻ほ場に入り、田植えを40分程度で手植えしました。その後、畦に虫よけ効果のあるアップルミントの定植を行い、クリーン農業を実践しました。

参加児童の多くは、田植えが初めてということもあり、はじめは恐る恐るの場に入りましたが、徐々に慣れていき、「泥の感触が気持ちよかった」、「すごく楽しい」、「もっと植えたい」と、声をあげながら、田植えを楽しんでいました。



バケツ稲土運搬

5月8日（月）、JAなんぼろ青年部は、南幌小学校4年生対象のバケツ稲づくり事業で使う土を運搬しました。

当日は、食育班の鈴木善友班長（栄進）が作業を行い、トラックに満杯に土を乗せ、南幌小学校に運びました。

今後もJAなんぼろ青年部では、食育事業に力を入れ、町内の子供たちや町外の方に南幌町農業に興味を持っていただけるよう頑張ります。



新採用職員農業研修

5月18日（木）から23日（火）まで、新採用職員3名が農業研修を久保理事宅、白倉監事宅で行いました。

今年の農業研修では、田植え作業を行い、水稲ほ場での苗渡し、苗箱洗いや育苗ハウスでの苗がし、苗運びを行いました。最初は、初めての作業に手こずりながらも、作業を行っていくうちにコツをつかみ始め、手際良く作業を行っていました。

農業研修を行った阿部職員（金融部共済課）は、「組合員さんが普段どんな仕事をしているのか分かり、大変勉強になりました。」と話していました。



▲ 田中職員（営農部資材課）



▲ 阿部職員（金融部共済課）



▲ 武田職員（総務部総務課）

日本農業新聞新入職員当JAに研修

5月15日（月）から約2週間にわたり、(株)日本農業新聞の平成29年度新入職員の吉田朋記さんが当JAに研修に訪れました。

研修では、各部署へ行きそれぞれの業務を体験し、また、5月18日（木）からは、久保理事宅（晩翠）にて農業研修を行いました。

今回研修に訪れた吉田職員は、「今回の研修を通して、農協の職員方がどのように組合員の方々にサポートしているのかを知ることができました。また、田植え体験を行い、普段何気なく食べているお米がどのように作られているかを学び、お米のことがさらに好きになりました。」と話していました。



J A北海道大会実践フォーラム

パネルディスカッション

テーマ「協同の力で実現する農業所得20%増大に向けて」

J Aいわみざわ 代表理事組合長 村木 秀雄 氏

「協同の力で実現する農業所得20%増大に向けて」と題したパネルディスカッションにおいて、パネリストの皆さんから頂いたご提言をシリーズで紹介します。

第3回は、村木秀雄氏の提言を紹介します。



村木 秀雄 氏

(むらぎ ひでお)

J Aいわみざわ

代表理事組合長

営農指導で所得増大

営農・販売の強化を目指して、営農関連部門の機構改革を行ってから1年半。まだ十分な成果は出ていませんが、色々な意見を聞き、組合員とともに発展する農協となるため、頑張る所存です。

農業所得20%増大に向けて、営農指導の関係では、出向く営農という形の中で、32名の職員を専属相談員として地域ごとに配置しました。やはり現場にしっかりと出向かなければ、農家の人たちに指導するような形にならないと考えます。

米、麦、玉ねぎについて各組合員の過去3年の平均収量をもとに、個別に指導しながら、レベルアップを図っていくようにしています。

例えば麦については、過去の収量が420kgに達していない組合員のレベルアップを図りながら、地域全体の農業所得を上げていく。そうした対策を取らなければならぬと考えています。

実践2年目にあたり、職員には個々に目標を持たせて取り組ませています。麦の今年の数字を見ますと、約40

kg、個人で収量が上がった実績があります。こういったことにしっかりと取り組みながら、組合員の要望に応えていきたいと考えています。

職員の育成面では、新しく配置した経験の浅い相談員を技術力を持った職員とペアで動かす中で、レベルアップを図っていききたい。

また、組合員の部会にどう関与していくか。当JAではICT農業の普及を進めており、100戸以上の組合員が組織を作って取り組んでいます。その中に職員を上手く貼り付けて、組合員と職員双方でレベルアップを図る。

農協に必ずしも全てを任せるのではなく、生産者組織とともに技術レベルを上げていく、そうしたシステムを作っていききたいと考えております。

組合員ニーズに応える販売

当JAの販売の中心は米ですが、年々集荷率が下がっています。

ホクレンを含めて、単協もしっかり対応していかなければ、集荷率がより下がっていくと考えています。

米は、2年共計で精算されます。最終的には、ホクレンの共計価格と業者の価格は、大きな差がないと考えますが、組合員の年内精算を求める声に対応できないことが、集荷の大きな問題点であると



考えています。

組合員の要望に応えながら、業者のやることは農協もやらなければならぬ、そうした時代になってきています。

野菜は、ある程度相対の中で価格を決めて取引しています。青果物の安定取引に向けては、玉ねぎをはじめ、予約相対取引の枠を拡大していかなければならないと考えています。

玉ねぎ、白菜など、道外発送が非常に多いですが、やはり地元企業との結び付きを強化していきたいと考えています。

最後に一言

昨年度は、営農関連部門の機構改革と併せて、6か所あった生産資材店舗を、資材センター化で1か所にまとめたことで、組合員からの批判も大きくありません。

ただ、組合員や青年部など若い人たちには、将来、自分たちのためになるなら、あるいは価格に還元できるなら、これも1つの方法と理解してもらっています。

コストを削減した分については組合員にしっかりと戻していきたい。そうしたことが役員の方針ではと考えています。

若い人たちが、どういう意見の中でまとまっているかを、常に農協運営では大事にしています。そういう意見を将来につなげていく役割が我々にはあると考えています。

テーマ「協同の力で実現する農業所得20%増大に向けて」

北海道大学 大学院農学研究院 准教授 村上 光男 氏
JA北海道中央会常務理事 村上 光男 氏
北海道大学 大学院農学研究院 准教授 小林 国之 氏

「協同の力で実現する農業所得20%増大に向けて」と題したパネルディスカッションにおいて、パネリストの皆様から頂いたご提言をシリーズでご紹介します。

最終回は、村上光男氏とコーディネーターの小林国之氏の提言をご紹介します。



村上 光男 氏
(むらかみ みつお)
JA北海道中央会常務理事

販売・営農のスペシャリスト育成

営農指導には、2年前のJA改革プラン作成時の組織討議で、組合員から販売と営農のスペシャリストをつくってほしい、技術も経営管理も含めた営農相談に乗ってほしいという要望が大きなきな声でありました。

中央会では、10年以上前から、普及センターの支援を受けて営農相談員の現場での技術対応力づくりの基礎研修

を耕種・畜種に分けてしています。

ホクレンも改革プランを設定し、販売、購買、営農支援を三位一体とする事業運営を基本に据えています。

それぞれの段階で、組合員とコミュニケーションを図りながらの事業展開が重要です。

J A間連携で販売力強化

販売力強化についてロットが少ないのであれば、JA間で栽培基準を統一してロットを増やす取組みもある中で、JA間での協同、連携を強めていくことも、作物によって必要だと考えます。販売は、協同組合なので、委託販売を基本で進めるのが当たり前だと思います。

その中で、組合員ニーズに合わせて、共計の一部見直し、あるいは一部品目の買取販売というように、必要なものは、全体的な合意を得ながら進めていくことが必要だと思います。

最後に一言

8月時点で、農業所得20%増大に向けた数値目標を持ち、実践しているJ

Aが、半分くらいあります。JAいわみざわの事例も含め、このフォーラムを通じて、全道各地で目標達成に向けた実践を図っていくことをお願いいたします。が重要だよ、努力もしているから、少なくとも今の価格で買ってほしい、できればそれ以上に評価してほしい、ちゃんと買い支えてほしいという発信を、グループ全体として頂けたら、もっと買う側にも伝わると思っています。



小林 国之 氏
(こばやし くにゆき)
北海道大学 大学院農学研究院 准教授

地域全体の所得向上

所得向上は、どのように高く売ることが注目されがちですが、JAいわみざわでは、いかに生産性を上げるかという観点で農協の体制を作っていく、非常に農協らしい事例でした。

農業所得20%増大といった時、個人ではなく地域全体として、いかに所得向上していくかが目標になります。

協同の力という点からは、やはり地域全体でいかに所得を上げるのかが、見失ってはならない軸と考えます。

昨今の議論について

生産資材に関して、規制改革推進会

議では、組合員自らがつくり、自らが利用する協同組合という農協の本質を見誤った議論が当たり前のようになっておりました。

そこが噛み合わないまま、議論が進んでしまうと大変なことになりかねません。分かっているのに主張するに留まらず、きちんと伝えることが本当に大事な点であると思います。

また、買取販売については、リスクをとって販売する体制をとりなさいという声があります。

色々な見方があると思いますが、受託販売だと農協が販売努力をしない、だから買取りをすべきという言い方が当たり前のようにされています。

販売努力をせず、ただ右から左へ流せば、いくらで売れても手数料が入るから良いと思っている農協の販売担当職員は一人もいないと思います。

逆に人の荷物を預かっているのだから、一生懸命売るといのが協同組合の基本的なスタイルですし、そこが見えなくなっているのは問題であると感じます。

最後に一言

これから数値目標達成に取り組みJAもあるかと思いますが、何のための所得向上なのかという点を、同時に明記しながら、取組みが全道的に広がれば良いなと思っております。

JAGグループ通信

JAGグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

JAG北海道大会決議事項の実践やその時々の特ピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトを「ご覧下さい」。

JAG北海道中央会

札幌市内で、高校卒業を控えた児童養護施設の生徒向けに、調理実習体験「おとなの食育」を開催しました。

JAGグループ北海道と「興正」子ども家庭支援センター」共催のこの取り組みは、高校卒業後施設から巣立つ生徒に規則正しく健康的な食生活を送ってほしいという趣旨で実施しています。

札幌消費者協会「札幌ポトフの会」吉田講師からの「食」や「栄養」に関する座学、乳製品を使った調理実習体験に参加した生徒は「自分で作ると美味しい、今後もしっかり自炊したい」と笑顔で話してくれました。



JAG北海道信連

3月に札幌駅前通地下歩行空間でJAGバンクPRイベントを行いました。

ドーン貯キャンペーン当選者の発表や冬季アジア大会銅メダリストのカーリング日本代表『ロコソラーレ』の本橋選手・吉田（知那美）選手によるトークショー、サイン色紙等の当たるクイズを行いました。また来場者のSNSにJAGバンクポスターの写真を投稿してもらおう等JAGバンクのPRに取組みました。



ホクレン

ホクレンは、新たな販路開拓に向け国内の食品に携わるバイヤーを対象にした「第11回JAGグループ国産農畜産物商談会」(3月7、8日開催、JAG全農など主催)に出展しました。てんさい糖や乳製品、北海道米、小袋豆などを幅広く紹介したほか、新たに商品化した「ゆめぴりかの乾燥玄米入りグラノーラ」などを試食提供し、北海道の安全で安心な農畜産物や加工食品の魅力を伝えました。



JAG共済連北海道

JAG共済連は、国立がん研究センターと「がん」に関する情報提供について包括連携協定を締結しています。

世界各国で啓発行事が行われた「世界がんデー(2月4日)」に合わせ、チラシや告知資料を作成し、組合員や地域の皆さまに「がん」の正しい知識など情報提供すると共に、「がん共済」「医療共済」の推進活動にも活用します。

※この取組みについてはホームページにも掲載しております。



JAG北海道厚生連

旭川厚生病院で「土曜ドック」を！
旭川厚生病院では、男性の方を対象として、隔週土曜日に人間ドックを実施しています。午前中に全ての検査が終了し、検査結果は受診日から1週間ほどでお届けします。前立腺がんや肺ドックなどのオプション検査も可能です。

随時予約を受け付けておりますのでお電話でお問い合わせください。

※完全予約制

(Tel) 0166-33-7171

(内) 2146・2198



J Aグループ通信

J Aグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

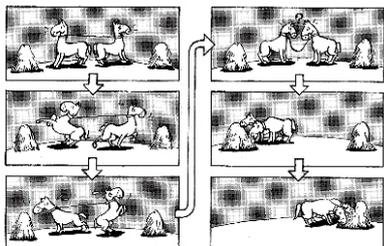
J A北海道大会決議事項の実践やその時々の特ピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトを「ご覧ください」。

J A北海道中央会

本会北見支所が企画し、オホーツク地区のJ A広報誌で連載している「今こそ！J Aとその意義と役割」をご紹介します。

J Aグループを巡る報道が多くされる中、改めて私たち農業協同組合が果たす意義と役割を再認識するため作成しました。「協同とは」「日本の農協はなぜ出来たか」などをテーマとした、全12回の連載です。連載を通じて、組合員だけでなくJ A広報誌を購読している地域の皆さんにも、私たちの成り立ちや活動内容を知ってもらい、共感して頂きたいと考えております。



J A北海道信連

平成20年度から、食と農業への理解を深めるきっかけとなることを願い、J Aを通じて食と農のつながりを解説した教材本とDVDを道内の小学校へ贈呈しています。平成24年度からは特別支援学校も対象とし、今年度は全道1,086校に贈呈します。

本会から北海道教育委員会に対し教材の贈呈を行い、教材活用の協力を要請しております。

教育委員会への贈呈式↓



ホクレン

ホクレン女子陸上競技部は今年度の新体制について記者発表を行いました。足寄町出身の清水美穂選手を主将に内山千夏、加藤凧紗、河辺友依の新人3選手を加えた11名で全日本実業団女子駅伝や個人種目の目標達成に挑みます。今年度は同部発足30周年。清水主将は「30周年にふさわしい結果を出せるようチーム全体で取り組みたい。個人ではマラソンで日本代表となれるよう頑張りたい」と抱負を語りました。



J A共済連北海道

農産物輸出を行う組合員やJ Aへの保障強化の観点から日本貿易保険と業務委託契約を締結しました。取引先の財務状況悪化等で代金回収不可能となった場合の損害を保障する「貿易保険」の保険料が10%引きで提供可能となります。また、農薬散布用ドローン本体の損害と接触事故による損害賠償の保障「ドローン総合保険」を共同開発。4月より共栄火災で引き受けを開始しています。今後も組合員やJ Aの負託に応える保障提供に努めて参ります。



J A北海道厚生連

組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非「一読ください」。



理事会報告

5月12日

5月理事会で審議された主な内容について、次のとおり報告申し上げます。

【議案】

- 1、平成29年度コンプライアンス・プログラムの設定について
- 2、平成29年度特別指導組合員及び資金管理組合員の選定基準の設定と選定について
- 3、平成29年度特別指導組合員及び資金管理組合員の組合員勘定取引計画及び供給限度額についての定款第54条第3項の規定による理事と組合との利益相反取引の承認について
- 4、農業協同組合法第54条の3第1項の規定による説明書類の作成について

【協議事項】

- 1、米および水田農業政策の確立に係る組織討議について
- 2、持続可能な北海道農業の確立に向けた基本的な考え方に係る組織討議について
- 3、畑作・青果対策の確立に関する基本的な考え方に係る組織討議について

【報告事項】

- 1、第3回営農振興組合長会議の開催結果について
- 2、農産物の生育状況について
- 3、エコープなんぼろ店平成28年度決算報告及び平成29年度事業計画について
- 4、農地耕作条件改善事業に伴う落札工事業者について
- 5、米麦出荷懇談会の開催について
- 6、平成29年度 米・麦・大豆出荷契約推進について
- 7、4月末農産物の保管状況について
- 8、各農業生産法人の総会報告について
- 9、4月期 J A ローン の貸付について
- 10、平成29年度 共済一斉推進要領について
- 11、J A バンク 基本方針に基づく「経営管理資料」のうち全中及び農林中金が定める事項について
- 12、平成28年度 コンプライアンス・プログラムの報告について
- 13、平成29年度 内部監査実施計画の変更について
- 14、平成28年度 剰余金処分について
- 15、南幌町農協役員協議会への助成金支出について
- 16、平成29年度 第4回理事会の開催について
- 17、規程の改正について
- 18、反社会的勢力との取引排除に係る対応状況について
- 19、4月末財務状況について

窓口セールスコンクール 全道大会出場

5月13日(土)、プレミアムホテルTSUBA Kー札幌で行われた、第2回J Aバンク北海道窓口セールスコンクールの全道大会に当J A高西職員(金融部金融課)が出場しました。

大会は、「年金部門」と「純新規部門」の2部門で行われ、全道各6地区から予選通過者両部門合わせて16名が参加しました。

高西職員は、「純新規部門」の岩見沢支所管内代表として出場し、コンクールはロールプレイング方式で実施され、審査が行われました。結果は惜しくも上位入賞とはなりませんでしたが、高西職員

は、「貴重な経験をさせて頂いたので、今後の窓口業務でも生かしていきたいです。」と話していました。



私達のJA

平成29年4月末日現在

組合員	2,825名
(前年同期比)	▲25名
正組合員	479名
(前年同期比)	▲28名
准組合員	2,346名
(前年同期比)	3名
正組合員戸数	304戸
(前年同期比)	▲10戸

編集後記

・後輩職員も入協してから数カ月がたち、私も先輩になったと実感し始めました。これからは自分がお手本となり、先輩職員から教わってきたことを教えてあげられたら良いなと思います。

くみあいだより担当の平井は新入協職員3名と写真を撮りました。



発行 JAなんぼろ 〒069-0293 空知郡南幌町栄町1丁目4番7号
 TEL 011-378-2221 (代表) 011-378-2274 (直通) FAX 011-378-0846 発行日 平成29年6月6日
 ホームページ <http://www.ja-nanporo.or.jp> X-URLアドレス koho@ja-nanporo.or.jp

企画・編集 営農部農業振興課 印刷 北海道リハビリ